

令和4年度たまの未来会議の開催状況

新たな玉野市総合計画を策定するにあたり、若者の自由な発想や意見、ニーズを積極的に取り入れるため、20代・30代の若者を主な構成員とする「たまの未来会議」を2回開催した。

(1) 第1回会議 (P2~)

開催場所：玉野市立図書館・中央公民館 第3研修室・第4研修室

開催時期：7月22日（金）14:00～16:00

参加者：14名（うち、市職員4名）

検討内容：骨子を作成する際の参考とするため、3つのグループに分かれ、玉野市の“良い所”、“課題”、“必要な取組”及び“将来像（キャッチフレーズ）”を検討した。

(2) 第2回会議 (P8~)

開催場所：玉野市立図書館・中央公民館 第3研修室・第4研修室

開催時期：10月7日（金）14:30～16:30

参加者：12名（うち、市職員3名）

検討内容：素案を作成する際の参考とするため、2つのグループに分かれ、素案に盛り込まれる「まちづくりの基本方針」「市の将来像」について話し合ったのち、将来像の「キャッチフレーズ」について意見交換を行った。

第1回たまの未来会議の開催状況

1 目的

- 新たな総合計画の骨子を作成する際の参考とするため、3つのグループに分かれ、玉野市の“良い所”、“課題”、“必要な取組”及び“将来像（キャッチフレーズ）”を検討する。

2 開催状況

開催場所：玉野市立図書館・中央公民館 第3研修室・第4研修室

開催時期：7月22日（金）14:00～16:00

参加者：14名（うち、市職員4名）

3 会議の進め方

- 3つのグループに分かれ、グループごとに与えられた2つのテーマ（政策分野）について、“課題”、“必要な取組”、“理想的な姿”を検討した上で、テーマごとの“キャッチフレーズ”を決定し、中間発表で他のグループに共有。
- 自分のグループでの検討内容、他グループの発表内容を踏まえて、各グループで“玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）”を決定し、最終発表で他のグループにも共有。

ワーク1 検討テーマごとの玉野市の現状を考えよう [個人ワーク]

- 玉野市の良いところ、課題、必要な取組などを付箋に記入。

ワーク2 検討テーマごとの理想的な姿を話し合おう [グループワーク]

- 付箋の内容をグループ内で共有し、テーマごとのキャッチフレーズを検討。

ワーク3 中間発表

- 各グループが考えた、テーマごとの課題、必要な取組、キャッチフレーズを発表。

ワーク4 玉野市のまちづくり全体の将来像を話し合おう [グループワーク]

- 各グループの発表内容を踏まえて、玉野市まちづくりのキャッチフレーズを検討。

ワーク5 最終発表

- 各グループが考えた、キャッチフレーズやそれに込めた思いを発表。

各グループの検討テーマ

A グループ	結婚・出産・子育て
	安全・安心
B グループ	産業・観光
	健康・福祉
C グループ	教育・文化・スポーツ
	市民参加

4 会議の概要

(1) 玉野市の良いところ (A・B・C グループ)

- ・ 自然が多い。
- ・ 天気が良い。
- ・ 都会過ぎず、田舎過ぎない、心地よい住環境。
- ・ 岡山・倉敷、直島へのアクセスが良い。
- ・ 中学校まで医療費無料など、市による子育てサポートが充実している。
- ・ お年寄りが多いので、ボランティアによる子育てサポートが充実している。
- ・ 待機児童ゼロ。
- ・ 災害が少ない。大きな災害がほとんどない。
- ・ 公園の数が多い。
- ・ 観光資源が豊富。
- ・ 海が近い、景色がきれい、写真撮影を目的に玉野に来る人もいる。
- ・ 車があれば楽に市内を回れるコンパクトなまち。
- ・ 宇野港周辺にはオシャレな店が多く、にぎわっている。
- ・ 濱戸内国際芸術祭の会場の1つ。
- ・ 介護サービスが充実している。
- ・ 昔ながらのものと、新しいものが良い具合に入り混じっている。

(2) 中間発表

A グループ

■結婚・出産・子育て

キヤッちフレーズ
安心して子育てできるまち
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 子育て世代の人口が減少している。・ 小児科の数が少ない、産婦人科がない。・ 公園の数は多いが、管理が行き届いていないため、安心して子どもを遊ばせることができない。
理想的な姿・必要な取組
<ul style="list-style-type: none">・ 公園の管理をしっかりと行い、安心して子どもを遊ばせることができる。・ 小児科や産婦人科がアクセスしやすい場所にあって、安心して子育てができる。・ 子どもも大人も、みんなが暮らしやすいまちになっている。

■安全・安心

キヤッちフレーズ
豊かな自然を未来につなぐまち
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 災害が少ないため、防災意識が低い。・ 管理者の高齢化により、公園や空き地が適切に管理されていない。・ 空き地や空き家が増えている。
理想的な姿・必要な取組
<ul style="list-style-type: none">・ 市民全体の防災意識が高い。・ 空き家の解体に関するお手伝い、助成金により、空き地や空き家の問題が解消に向かっている。・ 行政にだけ頼るのではなく、みんなで安全・安心のまちをつくるという意識を持っている。・ 市が必要十分なサポートをしている。

B グループ

■産業・観光

キャッチフレーズ
来て見て住みたい　にぎわいあふれる玉野
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 車がないと、観光地間の移動が難しい。・ 地域資源を活かし切れず、瀬戸内の島々への通過点になっている。・ 市内の企業・事業者、観光地のPRが十分でない。
理想的な姿・必要な取組
<ul style="list-style-type: none">・ 移動手段が確保され、不便なく観光地間を移動できる。・ SNS等での情報発信によって、市内外の人が産業や観光を含んだ玉野の魅力を知っている。・ 産業・観光の魅力が十分に磨き上げられることで、玉野が観光の目的地になって、それがきっかけとなり、玉野に住みたい人が増えている。

■健康・福祉

キャッチフレーズ
大人から子どもまで　いきいきと暮らし　よく分かる玉野
課題
<ul style="list-style-type: none">・ 各病院・診療所の特色や良し悪しが分からぬ。・ 小児科が少ない。・ 介護サービスの内容や利用方法が分からぬ。
理想的な姿・必要な取組
<ul style="list-style-type: none">・ 介護サービスの見学会や、高齢者と子どもの交流会などにより、高齢者は生きがいを得て、保護者は介護サービスの内容を知ることができる。・ 医療や介護情報が簡単に入手できて、誰でも利用したいと思ったときに、気軽に各種サービスを利用できる。

C グループ

■教育・文化・スポーツ

キヤッちフレーズ
玉野と言えば“玉野っ子”
課題
<ul style="list-style-type: none">少子化の進行で、児童数・生徒数が減っている。教育に特色がない。地域によっては、習い事ができない。玉野といえば“〇〇”という文化がない。また、これからブランディングするにしても、他と差別化された特徴的な歴史・文化資源がない。
理想的な姿・必要な取組
<ul style="list-style-type: none">英語、ICTなど、他自治体にはない特化型の教育が充実している。児童・生徒数が少ないからこそできる、魅力的で特色的ある教育が充実している。市外の人にも、玉野は教育の質が高いというイメージが定着していく、教育環境を目当てに、転入者が増加している。

■市民参加

キヤッちフレーズ
みんなで作る またまたたまの
課題
<ul style="list-style-type: none">少子高齢化の進行により、参加できる人の母数が減少している。年代にあった情報発信が不十分で、市からの情報が行き届いていない。
理想的な姿・必要な取組
<ul style="list-style-type: none">若い人にはSNS、年配の人には広報誌など、各年代に最適な手法で十分な情報が発信されている。民間と行政が協働で取り組めるイベントが充実している。老若男女、小さい子どもからお年寄りまで、誰でも気軽に参加でき、みんなで一緒にまちづくりを進めている。

(3) 最終発表

A グループ

玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）

みんなで作る 大人も子供も住みやすい玉野

キャッチフレーズに込めた思い

- ・ 自然が豊かというのは、各グループ共通の思いと感じた。
- ・ 自然が豊かで、公園も多く、住みやすいまちづくりに向けたポテンシャルが高い。
- ・ こうしたポテンシャルを活かしながら、行政だけでなく、市民みんなで、老若男女みんなが住みやすいまちづくりを進めている。

B グループ

玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）

皆がいきいきとくらせる 自然あふれるみなとまち玉野

キャッチフレーズに込めた思い

- ・ 各グループ共通して“自然の豊かさ”を玉野市の良いところと認識していると感じた。
- ・ 重視したのは、子どもから高齢者まで、住みやすいまちづくり。
- ・ これを“皆がいきいきとくらせる”と表現した。

C グループ

玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）

やっぱり、たまの ~住んでみな、トブゾ！！～

キャッチフレーズに込めた思い

- ・ 他の自治体とは差別化された特色あるまちづくりを進めたい。
- ・若い人は、進学や就職で外に住んでみて“やっぱり玉野がいいなあ”と、年配の人は、長年、住み続けてみて、“やっぱり玉野に住み続けてよかったなあ”と、玉野の良さや住むことの喜びを実感できるまちづくりを進める。

第2回たまの未来会議の開催状況

1 目的

- 新たな総合計画の素案を作成する際の参考とするため、2つのグループに分かれ、素案に盛り込まれる「まちづくりの基本方針」「市の将来像」について話し合ったのち、将来像の「キャッチフレーズ」について意見交換する。

2 開催状況

開催場所：玉野市立図書館・中央公民館 第3研修室・第4研修室

開催時期：10月7日（金）14:30～16:30

参加者：12名（うち、市職員3名）

3 会議の進め方

- 2つのグループに分かれ、「まちづくりの基本方針」と「市の将来像」について、第1回会議における意見の反映状況や方向性、考え方などについて話しあい、中間発表で他のグループに共有した。
- 中間発表での意見を踏まえ、各グループで考えた「玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）」を最終発表した。

4 会議の概要

（1）骨子案における「まちづくりの基本方針」に対する意見

①結婚・出産・子育て（希望をもって安心して子育てできるまち）

基本方針案
子育て環境が多様化する中、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事と育児の両立などに対する様々なサービスの充実や環境整備、ライフステージの各段階に応じた切れ目のない支援を行うことで、子どもも大人もみんなが希望をもって暮らせるまちを実現します。
意見
<ul style="list-style-type: none">「切れ目のない支援」について、切れ目があったら困るのでそのまま支援を続けてほしいという意見と、「切れ目のない」という言葉の言い回しを変えた方がよいのではないかという意見があった。産婦人科がないという現在の問題に対して今後の対策などが分りにくい。

②教育・文化・スポーツ（心豊かな人生がおくれる文化が薫るまち）

基本方針案

グローバル化、デジタル化に対応した特色のある教育や、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育む学校教育を推進することで、自分の将来に夢と責任を持ち、将来にわたって自己実現を目指すために必要な力を育みます。

多彩な文化芸術・スポーツが身近にあり気軽に楽しめ、生涯にわたり充実した学習や活躍の機会が提供されることで、喜びや感動に満ちあふれた豊かな人生をおくることができるまちを実現します。

意見

- ・教育を充実させ人口増加に繋げる方法もある。
- ・教育・文化・スポーツでは教育に語学の視点が必要だ
- ・グローバル化・デジタル化という言葉は安心に繋がるので良い。
- ・玉野の特色を反映させるべきではないか。

③健康・福祉（住み慣れた地域で、健康で元気に暮らせるまち）

基本方針案

ライフステージやライフスタイルに応じた健康づくりの機会を提供し、健康意識の向上を図るとともに、保健・医療や福祉サービスの充実や連携を進めることで、子どもから高齢者までの誰もが状況に合った適切なサービスや支援が受けられる、住み慣れた地域で生涯にわたって、健康で元気に暮らせるまちを実現します。

意見

- ・「子どもから高齢者まで」「健康づくりの機会の提供」が含まれることは良いと思う。

④安全・安心（自ら備え、支えあい、助けあう、安全安心のまち）

基本方針案

市民の防災・減災意識を高め、「自助」、「共助」、「公助」、それぞれの役割がしっかりと認識され、互いに連携し協働することで、市民や行政などが一体となって、近年大規模化している自然災害などに備える安全安心に暮らせるまちを実現します。

意見

- ・防災意識の向上を記載していることは評価するが、第1回の会議で議論となった空き家に関する記載がない。
- ・「自助」「共助」「公助」について記載されていることは良いと思う。
- ・防災意識だけでなく、インフラ整備も重要だ。

⑤産業・観光（来て、見て、住みたい、賑わいあふれるまち）

基本方針案

地元事業者の強固かつ柔軟な経営基盤の整備を支援し、今後の環境変化にも対応できる持続可能な地域産業の振興を促進します。また、本市で働きたいと思える就労環境の整備や創業支援により、新たな業種・形態の人材や企業の誘致を推進します。

観光資源の魅力・価値の掘り起こし、再生、磨き上げによる高付加価値化、訴求力のある情報発信など、観光振興を通じたまちの魅力づくりやブランディングを行い、国内外からの交流人口を拡大し、賑わいを創出します。

意見

- ・「国内外から」とあるが、国外からの方も入れると市民に語学力が必要となる。
- ・現代アートに関連して「創造」というワードをいれることで、観光資源を「創り出す」というイメージを持たせてはどうか。
- ・農業従事者の高齢化にも言及するべきではないか。

⑥生活環境・都市基盤（美しい自然と快適な都市機能を未来につなぐまち）

基本方針案

道路や上下水道などの都市基盤について、人口動向などの社会環境変化に合わせた整備や大規模災害に備えた強靭化を進めるとともに、長期的な維持管理コストを見越した適切なマネジメントを行い、将来にわたって市民生活に必要不可欠な生活環境や都市基盤を維持していきます。

市民、企業、各種団体などが、環境問題を自分事として捉えて、行政と連携・協力しながら、環境負荷が少なく、循環型社会に配慮した生活や事業活動を営むことで、美しい自然を未来に引き継いでいきます。

意見

- ・生活環境について、女性や子どもも住みやすいまちということで街灯などをもっと設置して安心できるまちを作ってほしい。
- ・空き家が増加していることから、その対策について示してはどうか。
- ・交通基盤の整備について触れられていない。

⑦市民参加（みんなで創る一人ひとりの個性と能力が輝くまち）

基本方針案

性別や年齢、国籍の違いなどから生じる多様な価値観やライフスタイルを互いに認め合い、尊重できる、全ての市民が個性と能力を発揮できる地域社会を築きます。

多様化・複雑化する地域課題に対して、市民と行政が話し合い、支え合うことで解決に導いていける協働のまちづくりを進めます。

郷土愛を育むとともに、多様な形で本市に関わる関係人口や移住者の拡大を図るため、まちの魅力・個性を内外に発信するシティプロモーションを推進します。

意見

- ・SNSや宣伝カーを取り入れてみるなど、情報発信を強化してほしい。
- ・住んでいる人へのPRが入っているのはいいが、具体的な情報発信方法が記載されてもいいのではないか。

⑧行政運営（市民から信頼され、時代のニーズに応える持続可能なまち）

基本方針案

行政は地域の経営主体という認識を持ち、長期的な持続可能性を担保した上で、限られた財源・人材等を効率的かつ効果的に配分し、激しい社会経済環境の変化、複雑・多様化する市民ニーズに柔軟に対応できる行政運営を行います。

意見

- ・①～⑧の全体を通じて、玉野らしさが入っていないと感じた。

(2) 骨子案における「玉野市の将来像」に対する意見

将来像案
「若者を惹きつける、誰もが行ってみたい、住み続けたいまち」
<p>安心して快適な暮らしができる社会の実現は市民みんなの願いです。こうした社会の実現に向け、市民や事業者など多彩な担い手が医療、福祉、商業、公共交通など、様々な分野でまちづくりを行っています。多様な主体に支えられた生活利便性の高いまちを維持していくためには、誰もが心の豊かさを実感でき、いつまでもここで暮らし続けたいと感じられる持続可能なまちであることが重要です。</p>
<p>本市は魅力的な地域資源であふれています。日本の渚百選に選ばれている渋川海岸や花崗岩の巨岩で有名な王子が岳、丘陵地の自然を活かした深山公園、多くのクルーズ船が入港する宇野港などは県内有数の観光地となっています。また、3年に1度開催される現代アートの祭典である「瀬戸内国際芸術祭」の開催を契機にアートによるまちの賑わいも生まれています。さらに、造船関連企業が集積する「ものづくりのまち」であることも本市の大きな特徴となっています。</p>
<p>これから2040年に向けて、こうした玉野独自の地域資源を十分に活用し、地域の魅力をさらに高めながら、妊娠、出産、子育てなどライフステージに応じた切れ目のない子育て支援サービスの充実、若い世代が働きたい雇用の場の創出、観光や文化の振興を通じた交流人口の拡大など、若い世代に焦点をあてた政策を推進することで、ヒト・モノ・カネが集まる、にぎわいあふれるまちをつくります。</p>
<p>こうした若い世代が憧れる魅力あふれるまちづくりを進めることによって、まちの価値が向上し、民間投資も活発になるため、若者のみならず、高齢者も障害者も誰もが見てみたい、行ってみたい、住み続けたいと思えるまちが実現します。</p>
意見
<ul style="list-style-type: none">・安心して働くという視点が必要。・雇用の場の創出だけでなく、起業のしやすさも重要だ。・福祉サービスの充実という言葉を入れるべきではないか。・読み手のターゲットをどこに置いているのか・教育に関する言葉を入れるべきではないか。・2段目の資源が具体的で良いが、必ずしも若者向けではない。・「若者」を強調すると、高齢者に受け入れられないのではないか。・「若者」がどこまで入るのかわからないが、その考え方は良い。・「いつまでもここで暮らし続けたい」というフレーズは良い。・多様性が重視される時代であり、さまざまなライフプランに注目するべきではないか。

(3) 最終発表

案1

玉野市の将来像（キャッチフレーズ）

気づけばたまの やっぱりたまの

キャッチフレーズに込めた思い

多様性、さまざまな生き方が重視されている。

さまざまな分野のことについてグループで話し合い、「誰でも」「みんなで」「暮らしやすい」「住み続けたい」ということが今後の大きなキーワードになると考へた。

誰もが自然と玉野を選び、暮らしていく、住み続けたいまちとなることを願いこのキャッチフレーズとした。

案2

玉野市の将来像（キャッチフレーズ）

玉野で育つ、T a m a n o が育つ

キャッチフレーズに込めた思い

住んでいる人が育てば玉野も育つ。こうした思いからこのキャッチフレーズとした。

玉野がローマ字なのは、世界に向かってはばたく、グローバルなまちになることをイメージしている。